天文界

第253號（第 22 卷）　（昭和17年）　第 7 號

卷頭　　隨筆

南十字星？　神武の劍星？

Southern Cross？ or Holy Sword？

野 尻 抱 影 *H. Noziri*

五月上旬の“東京日々”で讀んだのでは，前大阪プラネタリウム勤務の一等兵氏が，近く，スラバヤから，南十字星を“神武の劍星”と改稱することを，提案放送される由である．同氏が，南方で軍務の旁ら，天文普及に盡力されてゐるといふ話は，私としても慶賀に堪えない．（北方でも，前五藤光學研究所員伍長小島修介君が數年來それをやつて居られる.）しかし，氏が新聞の報道通りに提唱されるのだとなると，私個人として，多少，異議を申したい．

神武の劍星は高城氏の御發案であるやうに伺つてゐるが，その新名稱が同好の方々の間で言はれてゐるのなら，何も申すことは無い．そして，それを現に南方で活躍して居られ，毎夜その星を仰いで居られる方から，直接に聽くのでは，氣宇正に南半球を呑むの概があるに相違ないと思ふ．けれど，それが進んで，既に公稱として文學にも教科書にも現はれて居り，殊に，戰爭開始以來，愛國の詩歌にも頻出してゐる日本名“南十字星”を，この名で變改しようとなると，大分行き過ぎの感を抱かざるを得ない．

勿論，その動機は尊敬に値ひする．又，同氏の言の如く，神武天皇御卽位の頃，大和でも南十字星が見えてゐた事實は，天文學的に證明されてゐる．しかし，あの十字星が，クリストの十字架よりも，劍に似てゐると言はれる理由は，甚だ失禮ながら先入見による幻影としか思はれない．十字の長軸約6度に對し，矩軸約4度，この縱横の比例で，どうして劍を想はれるのだらうか？．强いて劍と見るとすれば，寧ろ西洋中世紀の騎士の，鍔が一文字に長い劍でもあらう．それとても，半ば折れた劍である．高橋邦太郎氏は，十年ほど前，白鳥座の北十字を十字軍の劍に喩へてゐたが，これも卽興に過ぎなかつた．南十字星は，それ以上に，劍には見えない．況して，上代，我々の祖先が佩かれた頭槌劍（かぶつちのつるぎ）の，長身で極めて鍔の狹い，雄渾な印象を與へるものとは，似もつかないと思ふ．私は，年來，星象に關する形容比喩をも相當に蒐集してゐる．しかし，南十字星を劍に擬した例などは，一つも見かけたこと

が無い．劍には見えないからである．

次ぎに，神武天皇御卽位に關して，何か南十字星との關係を示す文獻があるといふ記事である．それが事實なら驚くべき發見だが，記紀その他，古典のどこに現はれてゐるのだらうか．もし臆測程度に留まるものなら，それを以て南十字星を改稱する理由とすることは許されまいと思ふ．

それよりも，少くも私が南十字星の名を尊重するのは，正史に殘る炳たる文獻に據るのである．ダンテの神曲の“四つの星”が，果してこの星の群れを指すか否かは別問題として，これに“El Crucero”の名を與へたマジエランの配下ピガフエツタ初め，十六世紀初頭及びそれ以來，南方の未知の大洋へ船を乘り入れた海傑達の航海記が，競つて十字星又は南十字星の原名を傳へてゐることは御存じと思ふ．

しかし，それを假りに外國のことゝして顧みぬ方があるなら，我が池田好運が“元和航海記”に星座名クルゼイロと，星名クルスを記載して，その南中により緯度を知る天測法を傳へてゐることや，寛永の“天竺渡海物語”に，澳門より南への針路は“大クルス”(アルゴ！座の“僞せの十字架”)と“小クルス”(南十字星)を目標としたことを記してゐるのに注意を求めたい．これらは御朱印船による南方進出の貴重な文獻を代表するもので，十字星の原名が，少くとも三百年以上も前に我國の果敢な貿易家の間で口にされてゐた事實を語るものであり，臆測を許されるなら，更にそれ以前の八幡船の猛者たちも唱へてゐた星名であつたらう．

“南十字星”又は“十字座”は，勿論，明治以來の名である．しかし，その背景には日本にも少くも如上の史實があり，それが目前の赫々たる戰果を更に意義深いものとしてゐることを私は感ずる．新版圖の外國名を日本名に改稱するに就いて愼重な歷史的考察が問題になつてゐる今日，星名，特に歷史的にも南天の王者たる南十字星の改稱などは，輕々に行ふべきでないだらう．況んや，これは旣に立派な日本名として普及してゐるものであり，“Minami Zyūzi Sei”の響きは，i の母音を列ねて，莊重且つ雄麗でもある．そして，南十字の名が端的に，南中時に直立するその形を明示してゐることも忘れてはなるまい．(假りに神武の劍星を採るとして，“Kensei”の漢音は響きも惡く，一字々々の說明を聞くまでは，意味も判るまい．寧ろ“Kenbosi”か，更に Turugibosi”なら，堂々としてゐると思ふ．)

終りに萬一，十字星の名が，その初め基督敎に出たことを問題にする方があるなら，“赤十字”の名を思ひ出して戴くまでゞある．

以上は新聞記事に據つたもので，もし誤解があつたら，平に御寬恕を乞ひたい．